

わたしの教材・教具



加藤由紀
大阪・元中学校教員

絞り染めで作った
マスク



右上は江戸時代の絞り切り型で型染め。
他はいろいろな絞り染め、道具たちと



学校の真ん中を泳ぐ歴代のこのぼり

世界に一つしかない作品を作る～制作の授業

中 学校の支援学級で、自主編成の国数社理英5教科の他に、調理、制作、畑、スポーツ、劇、社会見学などにとりくみました。「制作」では、切り絵、型染め、絞り染めをよくしました。染料は綿麻専用のスレン染料（合成染料）で、日光と洗濯に強い堅牢な染料です。ソーダ（劇物！）やハイドロコクなどの薬剤も使います。素材は、小タオル、ハンカチ、バンダナ、手ぬぐい、Tシャツ、カバー布など。調理実習やお弁当包みなど、生活に生きて使えるものを。絞りの技法は、くしゃくしゃに丸めたり、棒状にくるだけでもおもしろいものができ、偶然にも助けられて初心者でもちゃんと結果が出ます。輪ゴムで絞る、並縫いして引き絞る、丸や形を縫って巻き上げるなど、段階を追ってとりくみます。

最 初は一人ひとり手取り足取り。でも集団でやるので、同輩後輩と先輩の間に教え合いや見習いの交流が生まれます。「〇〇ちゃんがやったやつ自分もやりたい！」あこがれは最大のモチベーション。色は十数色あり、分量で濃淡がつき、混色もできます。楽しんで選ぶ子、一つの色

にこだわる子、それが変化していく子、さまざま個性が出ます。細かい計量や手順もがんばって挑戦。さて、ちゃんと色が出るか、思い通りの色になるか、絞り模様がどう出るか、染めあがるまでわかりません。期待と不安を含んだドキドキ感と、ほどいた時のわあという感動、干しながらほおずりする子もありました。思いとちがっても意外なおもしろさが出たり、次こそ、と発展したり、染め直しもでき、一時の経験に終わらず、継続してとりくめる奥の深さがあります。文化祭の学級展示で「すげー！」「いいなあ」と言われ、3年生になるとめいめい好きな技法や色で2mのこのぼりを仕上げて卒業します。

退 職後は、発達支援センターぼぼろ、青年の学びの場「ぼぼろスクエア」の小中学生や青年たちと一緒に染める機会をもらっています。青年たちは作品の一部を売って材料代を稼ぎます。「すてき」「ほしい」と喜ばれ、お金をもらってありがとうと感謝される経験もすてきなことです。そのすてきなものをつくった自分に自信と誇りをもってほしいと願っています。